

7月の月間目標



じぶんのおてつだいをまいにちつづけよう！



今年の春は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、子どもが家庭で過ごす時間がとても長くなりました。そんな中で、子どもたちはどのように家庭で過ごしていましたか。家庭での時間が増えたことで、普段はできなかった家事に興味をもったり、お手伝いをしたりするようになった子どもも多いのではないのでしょうか。この期間にお手伝いの習慣が身に付いた子どもは続けて、まだの子どももお手伝いの習慣を付けるようにしましょう。

少しずつ難しいお手伝いに
挑戦してみよう！

○例えば、食事のお手伝いをするなら…

幼児は

- ・食器やお箸などを並べる。
- ・食べた後、食器類を流しまで運ぶ。



小学生は

- ・家族と一緒に料理をする。
- ・食べた後、食器類を洗う。



中学生は

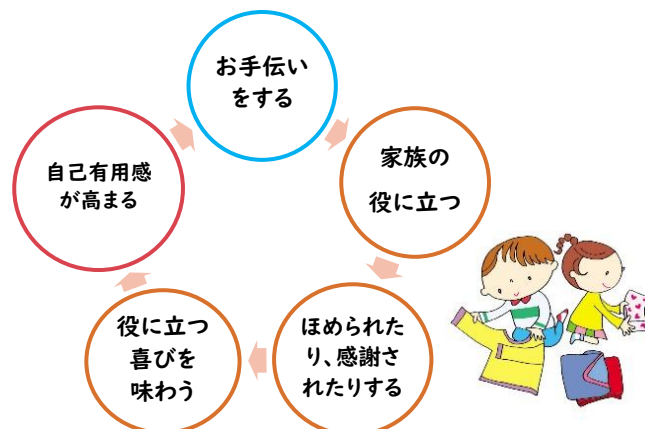
- ・献立を考えて、買い物に行く。
- ・簡単な料理を一人で作ってみる。

おうちの人と相談して、
できるお手伝いを考えよう！



～家族の一員としての役割をもたせましょう～

お手伝いをして、家族の一員としての役割をもつことは子どもの責任感を育てることになります。また、下図のように、お手伝いをし、周りから感謝されることで、子どもの自己有用感が高まります。自己有用感が高まれば、また少し難しいことに挑戦しようとする気持ちが生まれます。

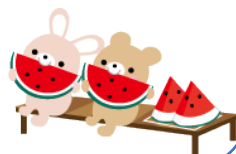


このほかにも、お手伝いをすることで、「自立性・積極性・協調性」といった自立的行動習慣が身に付く傾向があることが分かっています。

【参考】国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査（平成28年度調査）」

コロナウイルス感染症感染拡大防止による自粛生活で、子どもが家庭で過ごす中で、今まではしなかったのに、子どもが自分の部屋を片付けるようになったとか、子どもが料理に興味をもち、親子で料理を楽しんだとか、中には、保護者が仕事に行っている間に子どもが簡単な食事を作ってくれたという話も聞こえてきました。これは、子どもがこの期間、時間的な余裕があったことが大きいのかもしれません。

今年の夏は休みも短く、時間的な余裕も少ないかもしれませんが、子どもの「生きる力」となるお手伝いの習慣は、無理のない範囲で、時間を作って続けるようにしていきたいものです。



毎月第3日曜日は「家庭教育・家庭の日
(いきいきセンター)」です

奈良県立教育研究所
(令和2年7月発行)

家庭教育
Web ページ

